

# 令和2年度 岐阜県立土岐紅陵高等学校

## 学校運営協議会（第3回）議事要旨

- 1 会議名 土岐紅陵高等学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和3年2月8日（月）15:00～17:00
- 3 開催場所 土岐紅陵高等学校会議室
- 4 参加者 委員
- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 青木 雅子 | 下石女性の会会長                |
| 飯田 明子 | 土岐市立西部こども園長             |
| 土本 泰  | 至学館大学入試広報担当             |
| 山路 峰弘 | 土岐市まちづくり推進課長            |
| 鷺見 政人 | 土岐市社会福祉協議会              |
| 勝股 雅代 | 下石小学校PTA家庭教育学級委員長（書面参加） |
| 佐々木啓子 | 土岐商工会議所事務局長（書面参加）       |
| 仙石 守一 | 土岐市立下石小学校長（書面参加）        |
| 長瀬 教行 | 土岐市立西陵中学校長（書面参加）        |
| 藤本 忠嗣 | 土岐紅陵高等学校PTA副会長（書面参加）    |

オブザーバー 林 尚志 県立高校地域連携コーディネーター

学校側

中川 敬三	校長
日比野隆行	教頭
加藤 健二	教務主任
薄田 直樹	進路指導主事
河村 拓士	生徒指導主事

### 5 会議の概要（協議事項）

#### (1) 開会

- ① 会長挨拶
- ② 校長挨拶

#### (2) 今年度の評価について

- ① 生徒・保護者による評価結果について（校長より）
  - ・生徒・保護者ともに概して昨年度より高評価が増えている。新型コロナウイルス感染症による休校を経て、学校再開後間もない時期に行ったアンケート結果をどう評価してよいか迷うところがある。
  - ・「本校の先生は、基礎基本から分かりやすく教えてくれる」という項目の高評価が8割を超えているのは、勉強でつまずいた経験のある生徒たちに本校の教員が分かりやすい授業を心掛けていることの結果ではないか。
- ② 自己評価及び学校関係者評価について（各担当者より自己評価結果を説明）
  - ・土岐市など地域との連携の機会を多くもつことができた。その一方で、コロナの影響で中止になった行事も多くあり、残念だった。
  - ・生徒の進路支援やキャリア教育等の多くの場面で、色々な外部機関より協力を得ることができた。
  - ・ほとんどの教員がタブレットや電子黒板を利用した授業を行えるようになった。

- ・生徒はオンライン授業よりも対面での授業を望んでいるが、保護者はオンライン授業の実施を高く評価している。
  - ・オンライン授業の実施がその後の対面授業を順調に進めることにつながり、例年並みのカリキュラムをこなすことができた。
  - ・コロナウイルス対策による休校の影響で、生徒指導の初期指導が十分に行えなかった。
  - ・特別指導を受けた生徒数や進路変更した生徒数は例年並みであるが、長期欠席者数は減っている。
- (3) 来年度の学校運営の基本方針について（校長より）
- ・基本方針に変更はなく、来年度も継続して取り組む。
  - ・学校経営計画について、各担当より補足説明した。
- (4) 部活動について（校長より）
- ・募集定員減により教員数が減るため、部活動数の削減が必要となる。
  - ・令和5年度末までに3つ程度の部活動を削減する予定である。
- (5) 委員からのご意見等
- 意見1：オンライン授業では双方向の授業を行ったのか。
- （学校）双方向での実施を検討したが、授業の進行が滞り、生徒の集中が途切れがちになることを懸念し、双方向授業はやらないことで統一した。
- 意見2：生徒全員に配備されたタブレットの利用状況はどうか。
- （学校）生徒一人一台タブレットでの学習支援ソフトを使った授業については、試行錯誤しながら来年度に向けての効果的な利用方法を探っていきたい。
- 意見3：食と福祉系列では地域と連携した取組を行っているが、その他の系列でもそのような連携はあるか。
- （学校）美術・工芸系列では、土岐市の「温かい言葉がけ運動」のポスター作りに協力した。例年行っている「夏休みマンガ教室」等の行事は、コロナの影響でほとんどが中止となった。
- 意見4：進路指導に働き方改革の影響はあるか。
- （学校）進路補習は勤務時間内で終わるようにしている。不足分は課題の添削等で補いたい。
- 意見5：アンケートの結果は抜粋でなく全項目を見せていただきたかった。
- 意見6：このコロナ禍の中で色々な工夫をしていることが感じられた。

オブザーバーより：

- ・今年度はコロナの影響で福祉施設での実習やボランティアなど地域との連携がほとんどできなかったが、来年度もこの状況が続きそうである。オンラインでは学力を付けられても地域連携なしでは社会性は身につかない。
- ・市の戦略事業に高校生がいかにかして関わられるかが重要である。土岐市内の公立高校3校で役割分担できるとよい。
- ・「学びのフィールドは地域にある」ので学校の外に出て学ぶことが大切である。

## 6 会議のまとめ

（校長より）

委員の皆様にはお忙しいなか貴重な時間を割いていただき、感謝申し上げます。頂いたご意見をこれからの学校経営に生かしてまいります。

（会長より）

委員の皆さん、1年間本校の学校運営協議会委員として尽力していただき、感謝している。